

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	たけのこクラブ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 18日		～ 2025年 3月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年 2月 18日		～ 2025年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	どんたく演舞台(ダンス)、スボごみ、バザー、ゴミ拾い等のボランティア活動等、たけのこクラブ内から地域(福岡市内)への活動を増やしている。幅を広げて、より社会に近づけるような活動の機会を充実させていく。	子ども達が活動の中心となり、全体として取り組める活動内容への参加を増やしている。	現在の活動の中に保護者・地域住民を巻き込み、より大きな取り組みとして全体に周知出来ればと思い、幾度か回数を重ね、保護者への声掛け・参加から促していけたらと思う。
2	たけのこクラブ内でのZoom発表会。子ども達が中心となって、ダンスや歌、自分の好きなもの・趣味、料理等、個人個人が力を発揮出来る内容を提供しながら、自己肯定感を高め、自信をつけさせるような活動。	スタッフが協力しながら児童自ら発信出来る環境を作り上げ、誰でも参加して誰でも頑張れる場所を提供している。	発表の場にまだ立った事のない子ども達への促しを個々でどう声掛けをしていくか、企画と内容の充実化を図っていきたい。
3	中高生の活動内容。移動支援(バスや電車)、生活に必要な訓練(衣食住)、中高生のみでの討論会(悩み事や将来の事など)、将来社会に出る事を見据えた活動の取り組みの強化。	毎月、第3日曜日に中高生イベントとして、中高生のみでの活動を行っている。自分たちで考え、動き、学ぶ事を中心に様々なイベント活動を行っている。	将来を見据えた取り組みで何が必要なのか?さらに議論を重ねて、活動の幅を広げていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所がある地域との交流などはボランティアなどの取り組みがあるが、各児童が住んでいる地域との交流の意味では、まだ取り組みが出来ていない状況。	幅広い地域からの児童がいるため、その地域地域との交流の場を設ける機会は難しいと考えている。	土日祝の学校休校日を利用して地域毎のイベントで、参加出来るものがないか、情報収集をしていくように務めていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	たけのこクラブ
------	---------

公表日 2025年 3月 14日

利用児童数 39

回収数 90.0%

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					活動スペースを分け、人数によって活動内容を変更しながら安全に配慮した活動をしている。卓球やフィットネスバイクなど道具も充実させて活動の幅を広げてます。日々、全体でダンスも出来るようなスペースをしっかりと確保しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					安心安全に過ごせるよう職員配置基準よりも多くの職員の配置をしている。スタッフの体調不平等による欠動にも対応出来るように取り組んでいます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					施設内に段差はなく、移動にも配慮をしている。生活空間も分かりやすい構造になっている。今後必要に応じて児童の特性に合った環境整備も行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					日々清掃と環境整備を行っている。活動に合わせた空間作りにも力を入れている。今後も子どもたちが過ごしやすい環境整備を意識していく。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	94%			6%		モニタリングや担当者会議、毎月のスタッフ会議等で、子どもに対しての理解を深めている。モニタリング内で児童発達支援管理責任者が保護者との話合いで、子どもに特性・現状に合った支援内容を伝えている。今後とも保護者の要望をしっかりと受け止めていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					支援プログラムの内容に沿った支援を日々行っている。その中でも個々の特性にあった支援を5領域の中から選択し、活動に取っている。今後も保護者との共有の上、支援を行っていく。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	94%			6%		・しっかりとモニタリングをして頂き、計画を作っていました。 毎月のミーティング、保護者とのモニタリング等でしっかりと計画作成を行っている。実際の活動の中にも取り組んでおり、保護者への理解も得られている。今後は疑問や不明な点がないかなど、聞き取りも細く行っていく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					デイサービスでの課題に必要な支援だけでなく、将来を見据えた観点から、本人・家族・その先の未来、今後生活していく上で本人と家族の関係性も考慮しながら、具体的な支援内容を設定して、家族の意向、本人の意向も踏まえながら取り組むようになっている。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					モニタリングや担当者会議で保護者との情報共有・子どもの状況について時間をかけて行い、計画書に練り込んで保護者の理解を得られていると考えている。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	89%	11%				・毎週土曜日はZOOMの日になっているので、お出かけとかあると嬉しいです。 季節に応じたイベントや、日々の取り組みでも変化を付けている。毎週土曜日は各施設とZOOMで繋ぎ、固定化しないように様々なジャンルの取り組みや発表を行っている。今後は戶外活動の時間組み込みながらプログラムを組み合わせよう工夫をしていきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11%	39%	22%	28%		・地域の子供との交流はないけど、ないままで大丈夫です。 ・子ども同士ではないが、大学祭などに行って、大学生と交流をしていた。 清掃活動やどんたく出場、大学祭に行くなど地域の中への活動もしている。 地域の子どもとの交流はないが、児童の特性や本人意思も確認しながら、今後は取り組みとして行えるように努めていく。
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	94%	6%				契約時の重要事項説明の際に丁寧に説明を行っている。不明な点等がないか、その都度お聞きしている。分かりにくい内容はないか等、確認を行い、丁寧な説明を行うよう心掛けていく。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					計画書を示しながら、丁寧に保護者へ説明をしている。今後もしっかりと目に見る形で示しながら説明を行っていく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	67%	33%				毎月第3週の土曜日に、臨床心理士の方による保護者向けへの療育会を行っている。モニタリングの際に支援が必要な保護者への対応として療育会の話をしている。今後とも話し合いの中から保護者へ情報提供として療育会を勧めていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%					送迎時に連絡帳の内容やその日の活動内容、児童の様子を保護者へ伝えるよう全スタッフに周知し、実行している。また送迎時に保護者とお話しさせていただいた内容はスタッフ間で共有し、課題等の理解を深めた上で支援を行っていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					モニタリング・担当者会議を行っている他、家族や子どもの状況に応じて、保護者へ連絡し、相談・助言を行っている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					保護者からの話にただ共感するのではなく、話をしっかりと理解、なぜそうなのか等、冷静な判断の上支援を行うように心がけている。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17%	17%	28%	39%		家族向けのイベントはないけど、ないままで大丈夫です。コロナ前はクリスマス会とかあってダンスとか見れたので、イベントあったら行きます。 感染症等の観点から、保護者を集めてのイベント等開かれなくなった状況だったが、スポーツ・バザーなどで保護者も参加出来るような活動も入れていけるような取り組みを増やしている。きょうだい同士も交流は行っていないが、必要に応じて対応していく。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	94%	6%			・苦情が特にないので分かりません。	今後も苦情に対して迅速に対応を行い、苦情内容は職員で話し合い周知していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					日々の子どもとの会話や、送迎やモニタリングの際の保護者との会話など、管理者へ迅速、管理者から子どもや保護者への連絡も配慮した上でやっている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	61%	22%	6%	11%	・日々の写真や動画が見れたら嬉しいです。 ・活動予定や行事予定を毎月出して頂けるのは助かっています。	月1回で月間の行事予定をお渡ししている。活動内容も詳細を記載、直接連絡してお伝えするなど工夫をしている。HPも不定期ではあるが活動内容を更新している。日々の活動について、必要な保護者には様子をお見せ出来るような形も取り入れていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					個別ファイルも鍵付き書庫へ保管、日々の会話にも個人情報に気を付けてながら行っている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	89%	8%		8%	すみません、利用開始の時に聞いているかも知れませんが、わかりません。	各種マニュアルを策定、各保護者へ周知し、各避難訓練も年2回以上行っている。必要な職員への訓練も年1~2回で行っている。再度、保護者への周知の徹底をしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%					年に2回以上、洪水・地震・火災を想定した避難訓練を実施している。実際に予定表にも組み込み、連絡帳にもその日行った避難訓練を記載して保護者へ伝えている。今後も分かりやすく保護者への周知は行っていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					安全計画について保護者への周知、内容に沿って児童の安全を確保出来るように職員にも周知している。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	83%	6%		11%	・怪我や事故がなかったので分からない。	事故が起こり、怪我をした際はすぐに保護者への連絡をしており、その後の対応も迅速に行っている。事故後の対応（入院や通院）に関しても適切に行っている。怪我がない事が一番なので、安全には最も配慮しながらの活動を行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					子どもが安心・安全に過ごせるような職員配置、職員教育を行っている。保護者も子どもも安心出来る環境作りにも努めていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%				・とても楽しみにしています。	児童が今日も楽しかった、来て良かったと満足できるよう日々の活動を職員全員で考えている。本人にとって来て良かったと思える内容を更に職員全員で考え活動内容に取り入れていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					保護者、本人のニーズに沿った支援を計画に基づいて行っている。今後も日々の会話等から必要なニーズを聞き出し、満足できる内容を継続していく。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		たけのこクラブ				公表日	2025年 3月 14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		小学生、中学生、個室のスペースを確保し、目的に合わせて使い分けをしている。 静かな活動、活発な活動の場所も分けて対応している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		児童数に合わせて職員を必要数よりも多く配置するようにしている。 職員の体調による欠勤にも迅速に対応出来るような体制作りにも努めている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		施設全体は段差がないような造りとしている。	今後設備が増える事により不適切にならないように、しっかりと配慮していく。 また受け入れ児童によって必要な設備があれば検討・設置していく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		日々清掃と環境整備を行っている。活動に合わせた空間作りにも力を入れている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		児童の活動内容や特性、状況に応じて個室や別の空間を使用出来るようにしている。 またスタッフもその場に応じて対応出来るようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		毎月のミーティング内でもしっかりと話し合い、職員全員で取り組んでいる。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員全員にもアンケート内容を周知し、話し合う機会を設け、今後の改善点に繋げている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		毎月のスタッフミーティングに参加、職員との議論を行っている。 また日々の中でも療育後の話し合いも設けて改善に繋げている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	86%	14%	療育会や担当者会議などで他施設との関わりで意見を聞く機会を作り、支援に繋げている。	毎月のスタッフミーティング内でも職員全員へ通達し、情報を共有していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		新人研修や毎月ミーティングを行っている。また年数に応じて外部講師による研修も行っている。 毎月のスタッフミーティングで各種対応の内容を話し合い、研修・訓練も行っている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		支援プログラムの内容に沿った支援を日々行っている。 その中でも個々の特性にあった支援を5領域の中から選択し、活動に繋げている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		児童発達支援管理責任者がアセスメントを行い、職員間でも議論し、意見交換をした上で計画書を作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		毎月のスタッフミーティングで児童の支援についての議論が行われており、皆で共有し、最善の取り組みを決定している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		作成した計画書をスタッフで共有し、計画に沿った支援内容を確認し合い、支援に繋げている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		発達検査等の検査結果からの支援内容の把握、個々の日常の中から得られる支援内容の把握を確認し支援に繋げている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		デイサービスでの課題に必要な支援だけではなく、将来を見据えた観点から、本人・家族・その先の未来、今後生活していく上で本人と家族の関係性も考慮に入れながら、具体的な支援内容を設定して、家族の意向、本人の意向も踏まえながら取り組むようにしている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		担当を決め、療育前、療育後の時間を使い、スタッフと話し合う機会を作っている。 またスタッフからの活動プログラム案があれば積極的に取り入れるようなチーム作りも行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		定期的にプログラムの入れ替えを行い、固定化しないように取り組んでいる。	曜日によって同じ活動名のものがあるが、実際に行う内容には変化を持たせ、毎週同じ内容のものにならないように改善していく		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		担当者会議やモニタリング、スタッフとの会議を行いながら、子どもの状況を把握し、目標に合わせた個別と集団活動の内容も加味して計画を作成している。			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		支援開始前に職員全員でその日の利用者を確認し、1日の流れ、対応や役割を話し合う時間を作っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		支援終了後に職員全員で1日を振り返り、それぞれ気づいた点など意見を出し合う時間を作り、次の利用の際に気を付ける点なども共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		記録の内容を職員で情報共有し、次回への取り組みに活かすことを心掛けている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		6ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。また職員全員に情報共有をしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%		1つの活動に偏らない活動内容で日々考えながら組み合わせさせた活動を取り組んでいる。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		選択場面の設定、一人一人の意思決定を尊重しながら、避ける支援活動に参加出来るような取り組みを行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		担当者会議には児童発達支援管理責任者が参画しており、利用者の状況を細かく伝えている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		主治医からの診断結果、子ども・保護者との話し合いの内容など情報を共有し、その情報を元に支援できる内容を職員と話し合い、取り組める体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		学校からの引き渡し場所・方法は学校と話し合い、明確に決めている。下校時刻等は紙媒体や電子媒体で共有出来るようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		必要に応じて行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		障害福祉サービス事業所への移行前に各事業所と連携し、担当者会議等で情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		必要に応じて、連携しながら対応を行い、職員への研修等も行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	29%	71%	どんたくへの参加やバザー、スポーツ、ゴミ拾い等のボランティア活動を幅を広げている。	障がいのない子どもと活動の機会を設けていない状況。児童の特性や家族状況も把握しながら、必要に応じて取り組んでいく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		協議会へ参加し、職員への情報共有も行っている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時に利用時の状況を伝えながら、情報を心掛け、支援に繋げている。また来所された際には活動の写真や動画を見ていただき、現状を保護者へ伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		モニタリングの際に、家庭の様子を聞き取りながら、保護者への負担にならないような方法の提案等を行っている。毎月、保護者向けに臨床心理士の方の療育会も開催している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		保護者との契約の際に丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		計画書作成の際に、必ず保護者と面談を行い、保護者や子どもの意思を児童発達支援管理責任者が確認を行った上で作成・提供からの支援に繋げるように努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		計画書を示しながら、丁寧に保護者へ説明をしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		保護者の話をしっかりと受け止め、関係職員にも意見を聞きながら支援を行っている。また毎月の職員会議にも事例として意見を仰いでいる。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	71%	29%	季節毎のイベントなどで父母も参加して、保護者同士の繋がりを作る機会を作っている。	感染症による集まりを懸念していたが、バザーやスポーツみやボランティア活動を通して、保護者同士が繋がる機会を設けていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		素早く職員全員に内容を周知し、改善点や体制を情報共有し整備した上で対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		毎月、行事予定表の配布を行っている。HPにも不定期ではあるが活動内容の発信をしている。	

非常時等の対応	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		SNSやLINEなどのやり取りの中でも書き込み禁止など細心の注意を払っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		相手の意思・主張を尊重することを忘れず、丁寧に対応することを心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	71%	29%	地域住民との関わりで、地域清掃などの取り組みを行っている。	地域住民の招待などは出来ていないが、バザーなどを開催しイベントの幅を広げていく事で、地域の方も招待出来るような体制作りを行っている。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各種マニュアルをファイル管理して、閲覧出来るようにしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		業務継続計画はいつでも閲覧出来るようにしている。またそれに沿った避難訓練等も行っており、必要な訓練もミーティングの際に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		子どもの状況は、利用の際に児童発達管理責任者よりスタッフ全員へ周知している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギーについては面談の際に保護者より話を聞き、主治医の指示書の提出を求めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画に基づいた研修や訓練をスタッフミーティングや定期的な社員研修を行い、スタッフへ周知、支援に繋げている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		避難訓練や避難場所の確認、避難した際の保護者への連絡手段等、児童の安全を最優先で動けるような取り組みをしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ファイルを作成し、職員で共有出来るようにしている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		毎月のミーティングでも情報共有を行い、必要な児童・家庭があれば対応を話し合っている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		事業所内で予め身体拘束の取り決めを行っている。それを踏まえた上で、契約の際に保護者へ丁寧に説明を行っている。		